P-53

看護学生のストレス対処能力とストレスの実態 H25 年度と H26 年度の比較より

新潟医療福祉大学看護学科
稲垣千文，小山歌子

【目的】

本学の看護学科 3 年次後期の保健師実習に臨む学生のストレス対処能力と，ストレス内容及びその対処方法を H25 年度と H26 年度の比較により明らかになった事を報告する.

【方法】

1）研究対象者，H25･H26 年度の保健師実習を履修する看護学科 3 年生，H25 年度 88 名，H26 年度 84 名，合計 173 名．2）調査時期，方法，①実習前，実習終了後質問紙調査法の実施．3）調査内容，①実習前，社会学者の Aaron Antonovsky が作成し，山崎喜比古らが邦訳した SOC 尺度 29 項目版（以下 SOC 尺度とする）を用いストレス対処能力 SOC（以下 SOC とする）の測定[1) 2)]．②実習後変化を測定するため，再度 SOC の測定．③先行研究を基に研究者が作成した調査票で，実習中のストレス内容の順位を問い，理由と対処方法の自由記述．4）調査票回収は留め置き法．5)分析は実習前後の SOC が揃っているものを対象に，H25･H26 年度において①実習前後の SOC 変化の比較，②実習中のストレス内容の順位，③ストレスの理由と対処方法は，質的帰納的に分析．④SOC 得点と実習クール及び実習成績，学生の興味と実習の感想の関連を分析．6)本研究は，本大学の倫理審査で承認を受け実施.

【結果】

学生 H25 年度 36 名，H26 年度 35 名，合計 71 名より回答を得た（有効回答率 41.0%）．実習前後の SOC を表 1，表 2，また実習で一番ストレスと感じた項目の順位について表 3，ストレス理由と対処方法は 1 位の実習記録について表 4 に示す.

表１　実習前後のSOCの比較

年度	項目	実習前SOC値	実習後SOC値	実習前後　SOCの比較
H25	平均点	117.4	114.7	ウィルコクソンの符号順位和検定 Z=1.393（P=0.163509） スピアマンの順位相関係数 rs＝0.8611（P<0.01）
	標準偏差	21.30	21.42	
	最大値	160	159	
	最小値	53	64	
	中央値	117	117	
H26	平均点	126.7	127.3	ウィルコクソンの符号順位和検定 Z=0.275（P=0.780670） スピアマンの順位相関係数 rs=0.8085（P<0.001）
	標準偏差	16.62	15.55	
	最大値	154	162	
	最小値	91	89	
	中央値	127	130	

表２　実習前後のSOC　下位尺度の比較

	下位尺度	把握可能感	処理可能感	有意味感
	下位尺度の範囲	12～84	9～63	8～56
	下位尺度の中央値	48	36	32
H25	実習前	41.97	39.83 *	35.89
	実習後	40.97	38.00	35.75
H26	実習前	45.89	41.77	39.03
	実習後	47.31	41.34	38.66

* P<0.05

表３　一番ストレスと感じる項目の順位

年度	1位	2位	3位	4位
H25 (86名)	実習記録	人間関係	自己の能力	実習内容
	12名 (33.3%)	11名 (30.6%)	9名 (25.0%)	4名 (11.1%)
H26 (35名)	実習記録	自己の能力	環境の変化	人間関係
	15名 (42.9%)	10名 (28.6%)	6名 (17.1%)	3名 (8.6%)

表４　実習記録のストレス理由と対処

年度	実習記録中の1位項目	理由	対処
H25	地域アセスメント	データなく、意見がまとまらない	皆で協力した。時間外も行った。
H26	健康教育	時間がない中、作成に時間がかかった	とにかく取り組む。役割分担をした。

H25･H26 年度の実習前の SOC 得点では，有意な差は見られなかった．そして，SOC 得点と実習成績及び実習時期の関連は，両年度共に見られなかった.

SOC 尺度 29 項目で，両年度共に実習後に低下している項目は，把握可能感の中の 1 項目 問 1 〖相手が自分を理解していると感じるか〗であった。その平均値は，H25 年度は実習前 4.64 から実習後 3.97，H26 年度は実習前 5.03 から実習後 4.23，（両年度共に P<0.01）だった．そして，両年度共に平均値が低かった項目は，把握可能感の中の 1 項目 問 12〖不慣れな状況の中にいると感じ，どのようにすればよいかわからないと感じるか〗が H25 年度実習前 2.75，実習後 2.56，H26 年度実習前 2.86，実習後 2.94 及び，処理可能感の中の 1 項目 問 25〖自分はダメ人間と感じたことがあるか〗が，H25 年度実習前 2.28，実習後 2.03，H26 年度実習前 2.31，実習後 2.69 であった.（SOC 尺度の 29 項目は，7 段階のリッカートである.）

【考察】

実習中のストレス項目については，両年度とも同じであることから実習記録が一番のストレスである事，また，SOC 尺度 29 項目中の問 1〖相手が自分を理解していると感じるか〗については，両年度とも有意に低下しているため，実習中に相手が自分を理解していないと感じることがあると捉えることができる．そして，問 12 と問 15 の平均値が両年度とも低い為，〖不慣れな状況にいると感じどのようにしたらよいか分からないと感じる〗と〖自分はダメな人間と感じたことがある〗は，実習中に学生が感じていると捉えられる．実習中の支援として，実習記録の書き方に戸惑い感じていないか等適宜確認し指導する，実習中に学生ができていることや良かったことなどを本人にフィードバックをする等支援が必要である事が示唆された.

【結論】

1．本看護学生の SOC 得点の実習前後の変化について H25･H26 年度の結果からは明らかにならなかった.
2．SOC 得点と実習成績と実習時期に関連はなかった.
3．学生の，実習中の一番のストレスは実習記録であった．実習中に学生は〖相手に理解してもらえないと感じる〗，〖不慣れな状況と感じどのようにしたらよいか分からないと感じる〗，〖自分はダメな人間と感じる〗ことがある.

【文献】

1)アーロン・アントノフスキー著　山崎喜比古・吉井清子監訳:健康の謎を解く　ストレス対処と健康保持のメカニズム．株式会社有信堂高文社　2010.
2）山崎喜比古　戸ヶ里泰里　坂野純子編:ストレス対処能力 第 2 版　株式会社有信堂高文社　2012.